

1 水道ビジョンについて

水道ビジョンとは、50年後、100年後の水道の理想像を具体的に示した計画です。

本市では、平成23年度（平成24年3月）に、21世紀の中頃を見通しつつ、令和3年度までの10年間の計画期間とする「西脇市水道ビジョン」を策定し、「安心と安定を未来につなぐ」を基本理念に、本市水道事業が抱える諸課題に対して設定した目標を実現するため、具体的施策を展開しています。

2 水道事業経営戦略について

水道事業経営戦略とは、水道ビジョンで示した理想像を実現するための、より具体的な経営計画です。

本市では、平成28年度（平成29年1月）に、令和18年度までの20年間の計画期間とする「西脇市水道事業経営戦略」を策定し、これらを基に本市水道事業の経営に関する各種の取組を進めています。

また、この経営戦略は、毎年度進捗管理を行うとともに、5年に一度を目安として、必要に応じて見直しを行うこととしています。

3 今回の改定について

この度、水道ビジョンの計画期間が令和3年度で終了を迎え、経営戦略については5年に1度の見直し時期を迎えている中、両者は相互に深く関連するものであることから、計画期間の同一化と効率化を図るため、両者を統合するとともに、厚生労働省の新水道ビジョン（平成25年3月全面改訂）の方針も踏まえ、令和4年度から13年度までの10年間の計画期間とする『西脇市水道ビジョン・経営戦略』として改定することとしたものです。

## 西脇市下水道事業経営戦略の見直しについて

### 1 下水道事業経営戦略について

本市の下水道事業は、昭和56年に着手し、平成19年3月末に建設事業を概成しており、市内ほぼ全域で下水道の使用ができるようになり、本市の生活排水処理率は、ほぼ100%です。

平成22年度には、より効率的な汚水処理事業を運営するため、統合基本計画を作成し、2処理区の公共下水道への統合事業を推進しています。

しかし、近年の人口減少等の社会情勢変化により使用料収入が伸びないこともあり、一般会計繰入金が本市の財政を圧迫しています。

このような中、お客さまに新たな金銭的負担を求める事なく、社会情勢変化に対応した事業展開が求められ、平成28年度（平成29年1月）に、令和8年度までの10年間を計画期間とする「西脇市下水道事業経営戦略」を策定しました。

この経営戦略は、毎年度進捗管理を行うとともに、5年後をめどに、必要に応じて見直しを行うこととしています。

### 2 今回の見直しについて

上記経営戦略に基づき、令和元年9月には黒田庄町小苗地区を農業集落排水北部処理区に、令和元年度末には合山地区、令和2年度末には中畑地区を加古川上流流域関連公共下水道に統合するといった施設の合理化を進めるなど、安定した事業運営を行うべく汚水処理費の削減に取り組んでいます。

そのような中、策定から5年が経過することから、今後の計画期間の安定的な事業継続の指針を策定するため、これまでの計画値と実績値の検証等を行い、予定通り下水道事業経営戦略の見直しを行うこととしたものです。